

2019年3月21日(木・祝)

13:00~17:00

日本大学文理学部

図書館3階オーバルホール

シンポジウム 歴史教育の未来を拓くⅣ

教科書・授業・入試が携えてすすむ改革

プログラム

開会挨拶：古川隆久（日本大学・日本大学史学会）
司会：小浜正子（日本大学・高大連携歴史教育研究会）

I：教科書

西村嘉高（青山学院高等部）
新学習指導要領の「問い」について考える
古川隆久（日本大学文理学部）
歴史総合、教科書執筆者の立場から

II：授業

早川和彦（筑波大附属駒場高校）
「オチ」をつくる授業—進学校の授業実践から
牧野一高（静岡県立藤枝東高校）
気軽な教材共有から深まる授業づくり—一定時制での実践

III：入試

鈴木 茂（東京外国語大学）
変わる大学入試と歴史教育

総合討論

終了後、学内で懇親会を行います。（会費 3,000 円程度）

主催 日本大学文理学部人文科学研究所総合研究
「20世紀の世界諸地域における「教化」と「反発・逸脱」をめぐる多角的視点からの研究」
（代表：古川隆久・日本大学文理学部教授）

共催 日本大学史学会 高大連携歴史教育研究会

※当日の参加も歓迎ですが、あらかじめ参加を予定されている方は、人数把握のため、rekishikyoku20190321@outlook.jp まで、お名前・ご所属・懇親会参加有無をご一報いただければ幸いです。



東京都世田谷区桜上水 3-25-40
京王線下高井戸駅または桜上水駅から徒歩 8 分

〔開催趣旨〕

昨春、新高校指導要領が発表されて、必修の歴史総合と日本史探究・世界史探究よりなる2022年度から始まる新しい高校歴史教育の具体像が示されました。新しい教科書の執筆も始まっています。また、2020年度からの大学入試新テストへ向けたプレテストも二回目が実施されて歴史的思考力をどのように測るのかも議論も具体的になってきました。そうした中で、それぞれの高校の現場の状況を踏まえた授業づくりの試みも進んでいます。

4回目を数える今春の「歴史教育の未来を拓くⅣ」シンポジウムでは、教科書・授業・入試が連携しつつ、どのように歴史的思考力を持った生徒・学生を育てる歴史教育を実現してゆくのかを議論したいと考えました。

「Ⅰ：教科書」では、新学習指導要領の特色である「問い」を検討し、また教科書執筆者から新しい科目のテキストに込めた想いを述べます。「Ⅱ：授業」では、進学校と定時制のそれぞれの現場で展開している歴史的思考力を育てようとする授業を紹介します。「Ⅲ：入試」では、新テストへ向けた共同研究を踏まえて、どのような入試が改革を進め定着させうるのか検討します。それぞれの分野について、歴史教育に関わるさまざまな立場からの率直な見解を交換し、歴史教育改革全体の見通しを得たいと思います。

今春も日本大学文理学部に多くの方が集い、熱い議論が交わされるのを期待しています。

報告者等紹介

- 西村嘉高（にしむらよしたか、青山学院高等部教諭、歴史教育）
[主要著作等]「新しい高等学校学習指導要領をめぐって」『歴史学研究』979号、2019年。「『歴史総合』のカリキュラム案」『日本歴史学協会年報』32号、2017年。
- 古川隆久（ふるかわたかひさ、日本大学文理学部教授、日本近現代史）
[主要著作等]『昭和天皇』中央公論新社、2011年。『昭和史』筑摩書房、2016年。
- 早川和彦（はやかわかずひこ、筑波大学附属駒場高等学校教諭、世界史教育）
[主要著作等]『歴史的思考力を伸ばす授業づくり』共著、青木書店、2012年。「国民文学から国民国家を考える」『日本歴史学協会年報』30号、2015年。
- 牧野一高（まきのかずたか、静岡県立藤枝東高等学校教諭、世界史教育）
[主要著作等]「対話的・創造的に学ぶ地歴の授業」『高校生活指導』203号、2017年。
- 鈴木 茂（すずきしげる、東京外国語大学大学院教授、ブラジル史・ブラジル地域研究）
[主要著作等]「高大連携の視点から見た大学の歴史教育」『歴史学研究』936号、2015年。「『黒い積荷』の往還—奴隷貿易から見る大西洋世界」歴史学研究会編『史料から考える世界史20講』岩波書店、2014年。
- 小浜正子（こはままさこ、日本大学文理学部教授、中国近現代史・ジェンダー史）
[主要著作等]『歴史を読み替える—ジェンダーから見た世界史』共編、大月書店、2014年。「歴史教育のジェンダー主流化へ向けて」大阪大学歴史教育研究会・史学会編『教育が開く新しい歴史学』山川出版社、2015年。